

化粧合板の施工説明

共通事項

- ※下地材は、反りのない乾燥した材を使用し、下地が平らになる下地処理施工を行って下さい。
(乾燥が不十分ですと、後にカビの発生や、反りが起こります。)
- ※釘と接着剤の併用をお勧めいたします。
- ※接着剤は木工用接着剤(F☆☆☆☆)を使用します。
- ※釘は仕上釘打機(またはピン釘打機)での施工が近年は一般的ですが、意匠性の良い仮止め釘や昔からのカラーネイル釘での施工があります。(施工の用途で使い分けをして下さい。)
- ※釘と釘の間隔は(ピッチ)は、300mmを推奨します。
- ※下地材(根太や胴縁)に石膏ボードや合板を貼り、その上から化粧合板を貼るとより一層、美しく仕上がる事が出来ます。

溝のある化粧合板 (ピーリングなど)

- 例-1)接着剤を併用し、木口の片溝を合わせて仕上釘打機で下地材に向けて打ち込み固定します。(仕上釘打機の圧力を調整して化粧合板を打ち抜かないようにして下さい。)
- 例-2)接着剤を併用し、木口の片溝を合わせてカラーネイルを下地材に向けて打ち込み仕上げに釘頭をポンチなどで打ち沈めます。

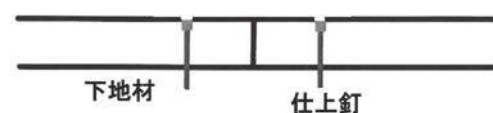


あいじゃくり・こばまき・平板化粧合板

- 例-1)接着剤を併用し、木口を合わせて仮止め釘で下地材に向けて打ち込み仮固定をします特に繋ぎの部分に接着剤の塗布をする事で、きっちりした貼り上がりになります。(注意—繋ぎの部分の接着剤の塗布量が多すぎますと、表面に接着剤があふれますのでご注意下さい。)仮あて木をして施工するとより一層良く仕上がる事が出来ます接着剤が乾きましたら、仮止め釘やあて木とともに釘を抜いて下さい。



- 例-2)接着剤を併用し、木口を合わせて仕上釘打機(または、ピン釘打機)で下地材に向けて打ち込み固定をします。
注意)仕上釘打機の圧力を調整して化粧合板を打ちに抜かないようにして下さい。また、圧力が弱いと釘の頭が化粧材より出てしまうので、きっちりと貼り上がらなくなり、釘の頭で怪我をする危険性があります、釘打機の圧力調整にはあらかじめ注意をして施工をして下さい。特に繋ぎの部分に接着剤の塗布をする事で、きっちりと貼り上がりになります。
注意)繋ぎの部分の接着剤の塗布量が多すぎますと、表面に接着剤があふれますのでご注意下さい。



【倉庫保管時における注意事項】

- ・高温多湿の場所は避けて下さい。
- ・風雨にさらされる場所は避けて下さい。
- ・直接地面に置くことは避けて下さい。(パレット等を使用し、15cm程度地面から遠ざけて下さい。)

☆プリント合板は木質商品の為、湿気を嫌いますので保管の際はくれぐれもご注意下さい。

【使用上の注意】

- ・室内での使用をお願いします。(のきてんを除く)
※のきてんについては、屋外において軒下部分のみの使用とし直射日光や雨が直接当たるような場所には使用しないで下さい。
- ・マジックやペンキなど塗料を上塗りすることは出来ません。
(弊社商品には表面に離形材を含むトップコートを使用しています)
- ・粘着テープや接着剤の使用は控えて下さい。
(表面の化粧紙が合板から剥がれてしまう可能性がある)
- ・サーチライト等の熱源を近接当てないようにして下さい。
(熱源によって、表面化粧シートの変質や火災の原因になります)
- ・普段のお手入れは乾いた布でカラ拭きして下さい。
汚れのひどい場合は中性洗剤を薄め固く絞った雑巾でふき取って下さい。
(シンナー・ベンジン・漂白剤等の有機溶剤は使用しないで下さい)